



ひなどり

園だより 9月号
令和3年9月1日
新潟市立新津第三幼稚園

「中秋の名月に寄せて」

園長 川合 千尋



国立天文台によりますと、今月は21日が「中秋の名月」だそうです。「中秋の名月」とは、太陰太陽暦（明治5年まで日本で使われていた暦。月の満ち欠けを元に日付が決められていました。）の8月15日の夜に見える月のことを指します。ですから、必ずしも満月とは限りません。（今年は満月です！）そして、中秋の名月は農業の行事と結びつき、「芋名月」と呼ばれることもあります。中秋の名月をめぐる習慣は、平安時代に中国から伝わったと言われています。

さて、お月様とうさぎの関係も昔からよく言われています。写真にありますように月に映った影のような模様がうさぎが餅をついているように見えるということですが、見えるでしょうか？うさぎの耳はなんとなく分かりますが、あとはかなり想像力を働かさないとはいけないようですね。子どもたちにも何に見えるか聞いてみたいと思います。外国では見える角度が違うので、カニや人の顔にも見えるそうです。

「中秋の名月」に関心をもった昔の人は、さらに次の日も見事な月を見ようとして月の出を待っていたそうです。しかし、次の日の月は十六夜で十五夜よりも50分ほど遅く出てきます。そこで、十六夜（いざよい）と呼ばれたそうです。（いざようはためらうという意味）さらに月の日は遅く出てくるので、立って待っている「立待月」次の日はさらに遅いので据わって待つ「居待月」次は寝て待つ「寝待月」と呼ばれたそうです。

せつかくのお月見シーズン、子どもたちと一緒にすてきなお月様を見ながら想像力を働かせていろいろなお話ができると楽しいですね。もちろん花よりだんごではなく、月よりだんごで、おいしいものを食べながらのお月見もいいですね。月に興味をもってくれた子どもたちは、きっといろいろなことに気付いてくれると思います。そんなお話を聞けることを楽しみにしています。